当院における食事加算廃止後の現状
～アンケート調査より～

伊藤浩子、瀬下エリ子、山田カナ、金　睦子
船木晴子、佐藤文子、菅野詔子
秋田組合総合病院 腎臓病センター

Present Situation after Abolition of Hospital Food Service in Kidney Center through The Quetionaire

Hiroko Ito, Eriko Sejimo, Kana Yamada, Mutsuko Kon, Seiko Funaki,
Fumiko Sato, Noriko Sugano
Kidney Center, Akita Kumiai General Hospital

＜Ⅰはじめに＞

2002年４月から診療報酬改定に伴い、外来透析者（以下透析者とする）の食事加算が廃止された。このことにより、食生活面・経済面に大きな影響を及ぼしている。

当院では、従来の治療食と同様な食事の提供方法を看護師・栄養科の討議のもと、院内レストランへ働きかけた。結果、弁当配食（以下レストラン弁当とする）を一食500円で提供することになり、透析者90名、71％がこれを受けている。他39名、29％は自宅より弁当持参・コンビニエンスストア（以下コンビニとする）から買い求めたりと３通りの方法をとっている。

今回、透析中の食事についてのアンケート調査を実施し、体重管理や食事管理の現状を知り、食事指導について若干の指標を得たので報告する。

＜Ⅱ研究方法＞

１、研究期間：平成14年７月１日～10月17日
　　調査期間：平成14年８月１日～８月10日
２、対象：外来透析者132名
３、調査方法：質問記述式無記名アンケートを用い10日以内に回収
　　アンケート回収数129名
　　アンケート回収率98％

＜Ⅲ結果＞

当院における外来透析者は129名で70歳代が最も多く、全体の29％、次いで50歳代が26％で、平均年齢は60.2歳であった。（図１）透析日の食事では、レストラン弁当が最も多く71％であった。（図２）レストラン弁当については、味・量・値段・献立共に85％以上が満足していた。（図３）

10%の方がコンビニからの購入であり、見た目・値段・栄養バランスで選ぶ人が多かった。（図4）そのほとんどが水分・塩分に気をつけていた。（図5）自宅より弁当持参の方は18%であり、栄養バランス・カリウム・リンに気をつけている人が多かった。（図6）また、弁当持参の方は、「自分の好きなものが食べられる」「経済的である」が良かった点としてあげられた。（図7）1ヶ月の透析時の食事代は、5千～8千円が最も多く57%、次いで3千～5千円が22%であった。（図8）食事代の負担により、娯楽・趣味・衣類の順で新たな節約をしていた。（図9）食事加算廃止前と後の体重増加率の比較では、それぞれの弁当で0.1～0.2%の減少がみられた。（図10）

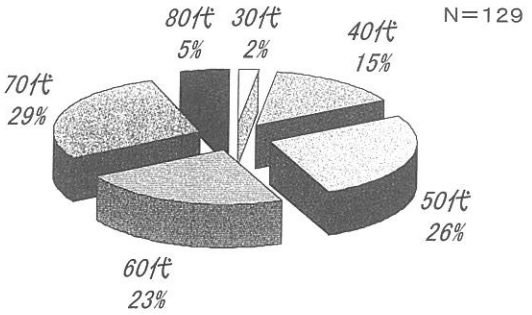

図1　年代別

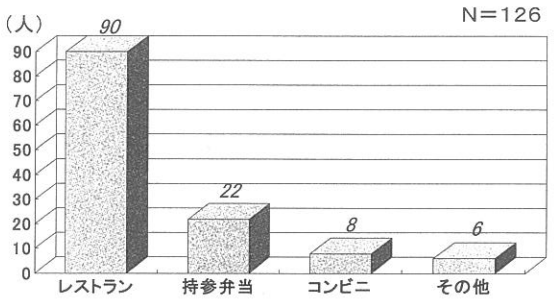

図2　透析日の食事

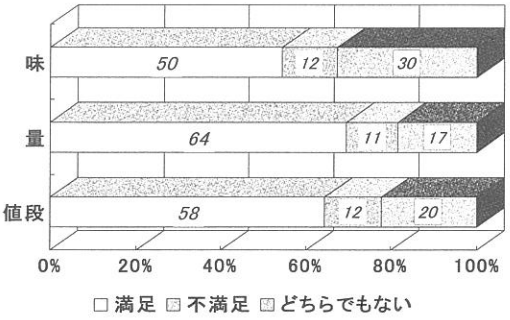

図3　レストラン弁当について

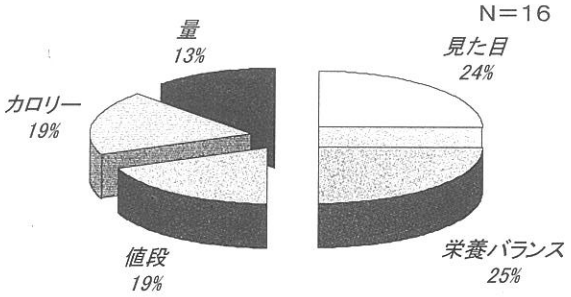

図4　コンビニより購入の方　何を目安にしていますか

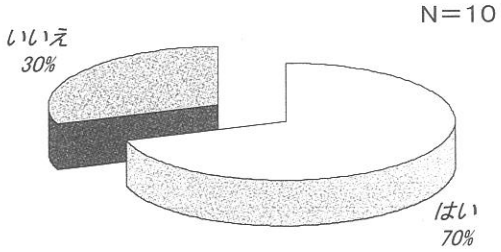

図5　コンビニより購入の方　水分塩分を考えていますか

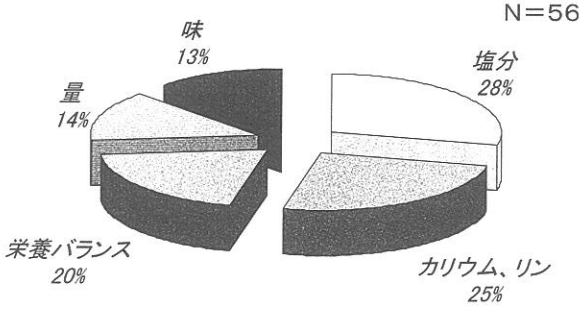

図6　弁当持参の方　何に気をつけていますか

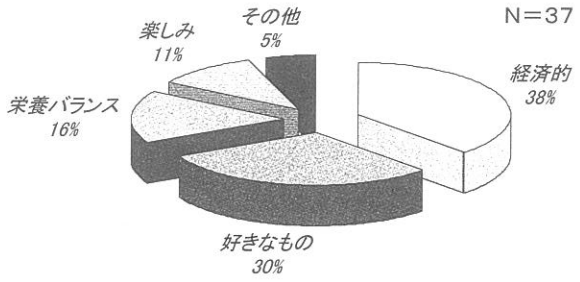

図7　弁当持参の方　何が良かったですか

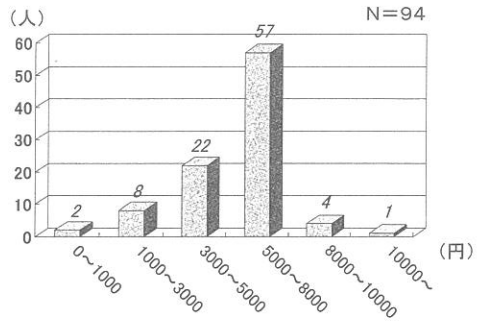

図8　1ヶ月の透析日の食事代

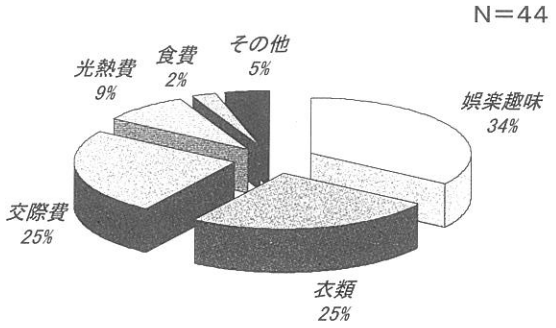

図9　何を節約していますか

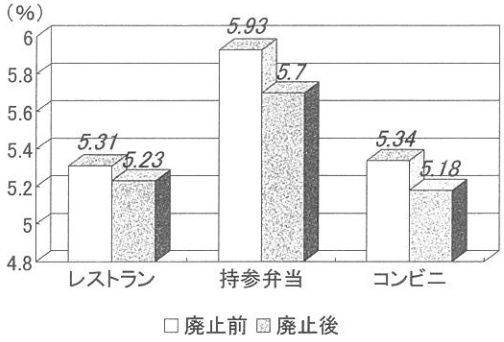

図10　体重増加率の比較

＜Ⅳ考察＞

今回、診療報酬改定に伴った外来透析食の廃止が、食生活面や経済面にどのような影響を及ぼしているか調査し、現状を把握した。

レストラン弁当が71％と最も多かったのはメニュー・カロリー・栄養バランス等を考慮し、従来の治療食と同様な食事を提供してくれることになったからと考える。また、1週間のメニューで、カロリー・蛋白質・脂質・炭水化物・塩分・カリウム・リンを印刷し、ラウンジに提示したことも多かった理由の一つと考える。

85％以上が味・量・値段共に満足しているのは、長年の治療食が今後も継続できるという安心と治療食の必要性を理解しているためと思われる。更に、スタッフ・レストラン・透析者との月1回の打ち合わせ会を開催している。この会が、透析者に還元されて満足につながったと思われる。

弁当持参やコンビニから購入している人の大半が栄養バランスに気をつけていると回答している。しかし、加工品が多く、塩分やリン制限等が守られていなかった。これは、治療食に対して理解はしているものの、食事の自己管理へ生かしていくことの難しい現状が考えられる。

更に、60％の方は1ヶ月の透析時の食事代で5千～8千円の金額負担となり、透析者の57％が60歳以上で、年金生活者であることを考えれば経済面で負担となったと思われる。これは生活面で節約している人が大半を占めていることからも考えられる。

柴垣[1)]は、「食事管理の良し悪しは、長期透析の成否を左右する最も大きな要因である」と述

べている。このことから、透析歴にかかわらず、透析者の食事管理に対する意識を高め、食事療法が習慣化されていくよう今後も継続した体重・水分チェック表の活用と食事内容記載を含めた食事指導が必要であると考える。

今回、アンケート調査の他に食事提供廃止前後の検査データや体重増加率の比較も行ったが、目立った変化は見られなかった。これは、１週間のうちわずか３食の治療食を参考として、個々の食生活に反映させるためには期間が短すぎたためであると思われる。

＜Ｖ結　論＞

１．外来透析者の71％が院内のレストラン弁当を受けている。

２．アンケート調査により生活状況を含めた食事環境を知る機会となった。

３．食事提供の廃止により、経済的負担と日常生活の節約が強いられた。

引　用　文　献

1）柴垣昌功：透析患者の看護．P172，医学書院 1984

参　考　文　献

1）「ぜんじんきょう」社団法人　全国腎臓病協議会．2002　7月

2）川原麻値：診療報酬改定に伴う外来透析食の提供について．第29回東北腎不全研究会・第62回北海道透析療法学会合同学術集会，演題抄録　P60，2002

3）鵜飼久美子：院内調理による透析食提供とメニュー説明の試み．第29回東北腎不全研究会・第62回北海道透析療法学会合同学術集会，演題抄録　P58，2002

4）井上啓子：単身者の栄養・食生活実態と栄養指導．臨床透析 VOL.14.NO14，2023-2028，1998，日本メディカルセンター

5）臼井昭子：食生活の多様化．臨床透析VOL.16.NO13，1989-1995，2000，日本メディカルセンター

6）小山美住：栄養障害．臨床透析VOL.14.NO.14，1957-1963，1998